

特集

イイね！👍ジオパーク!!!!

さあ行こう！一億年時間旅行へ ～三笠ジオパークの取り組み～

三笠ジオパーク推進協議会 梶木 勇

1. 北海道開拓の礎となったまち「三笠」

(1) 現在の三笠

皆さんは三笠市というまちをご存知でしょうか。三笠市は北海道の中央部、石狩平野の東端に位置する、人口8,800人ほどのまちです。面積は約303km²で、広さは東西約30km、南北約24kmにわたります。札幌や旭川などの主要都市、新千歳空港から車で約1時間の場所に位置しています。



図-1 三笠市の位置

三笠市は北海道の盆踊りで広く唄われている「北海盆唄」発祥の地として知られ、毎年8月のお盆には「三笠北海盆おどり」が盛大に開催されています。



写真-1 お盆に開催される三笠北海盆踊り

また、約1億年前の地層から非常に質の良いアンモナイト化石が産出することでも有名な地域です。三笠市立博物館には190種600点のアンモナイトが展示されており、国内最大のアンモナイト博物館として知られています。見て学ぶだけでなく、ケースの外に展示しているアンモナイトに自由に触れることができるのが大きな特徴です。



写真-2 三笠市立博物館館内

(2) 三笠の歴史

三笠市は明治初期に燃える石「石炭」が発見されたことをきっかけに、炭鉱まちとして発展してきたまちです。

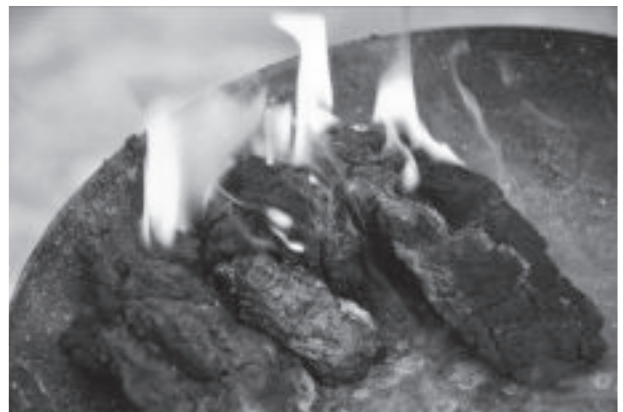


写真-3 石炭

当時、石炭は燃料資源として非常に価値が高かったことから、明治政府もその重要性に注目し、後に初代総理大臣を務める伊藤博文など、名だたる政府の要人たちが視察に訪れたという記録が残っています。

その後、道内初となる近代的な官営炭鉱の設置、労働力確保を目的とした集治監（現在でいう刑務所）の設置、石炭輸送のための鉄道敷設など開発が進み、最盛期である昭和 35 年頃には 6 万人を越える人々が三笠で暮らしていました。

この頃の三笠では、デパートや映画館、多くの飲食店などが立ち並ぶ繁華街があり、お祭も盛大に行われていました。

炭鉱の閉山によって人口は大きく減少しましたが、盆踊りをはじめとする炭鉱まちの文化や、当時の面影が残る町並みが現在でも残っています。



写真-4 昭和 30 年代のお祭の様子

また、三笠は北海道で初めて鉄道が開通した場所でもあります。幌内炭鉱で採掘した石炭を運ぶために、明治 15 年に三笠の幌内から小樽の手宮までを結ぶ「幌内鉄道」が敷設されました。小樽まで運ばれた石炭は港で船に積み替えられ、本州に運ばれました。

この幌内鉄道は、東京や大阪について、日本で 3 番目に作られた鉄道でした。アメリカから鉄道技師を招き、未開の原野に大きな苦勞を伴いながら鉄道を作ったことから、当時の三笠、そして石炭の重要性を垣間見ることができます。

幌内鉄道は昭和 62 年に廃線となりましたが、北海道鉄道発祥の地を記念し、三笠鉄道村を設置して

います。村内の記念館では様々な資料や実際に使用された車両を展示しているほか、SL の乗車体験を楽しむこともできます。



写真-5 三笠鉄道村で運行する S-304 号

(3) まちの成り立ちと大地との関係

ここまで見てきたように、三笠はまちの形成自体が、石炭の発見と非常に深く関わっています。まちの繁栄もやはり石炭を掘るための炭鉱の繁栄によるものでした。石炭という「大地の遺産」と三笠は、非常に密接な関係にあるのです。

2. ジオパークについて

(1) ジオパークとは

ジオパークという言葉は、大地という意味の「ジオ」と、公園を意味する「パーク」を組み合わせた造語です。ジオパークでは、貴重な地質や岩石、その上で育まれてきた生態系や文化を対象に、それらを保護・保全しながら教育や観光に活用することで、地域の持続的な発展を目指して活動を行っています。平成 30 年 1 月現在、国内では 43 の地域が日本ジオパークとして認定されています。

(2) 認定と再認定

ジオパークはどの地域でもなれるというわけではありません。ジオパークを名乗るためには、日本ジオパーク委員会による新規認定審査を受ける必要があります。さらに、1 度認定を受ければ終了というわけではなく、ジオパークに認定された地域は 4 年に 1 度、それまでの活動内容や状況について評価される再認定審査を受ける必要があります。

この再認定審査が、地域の持続的発展を目指すジオパークにおける特徴的な制度であり、再認定審査の評価によっては認定が取り消しとなる場合もあります。

3. 三笠ジオパークとは

(1) 三笠ジオパーク

三笠ジオパークは平成 25 年 9 月に日本ジオパークとして認定を受け、日本ジオパークネットワークに加盟しました。認定から 4 年目の今年、初めての再認定審査を受け、平成 29 年 12 月 22 日に日本ジオパークとして再認定を受けました。

(2) テーマとロゴマーク

三笠ジオパークでは、アンモナイトが海を泳いでいた一億年前から、炭鉱まちとして栄えた現在まで、一億年時間旅行を気軽に体験することができる場所として、「さあ行こう！一億年時間旅行へ～石炭が紡ぐ大地と人々の物語～」をテーマにしています。

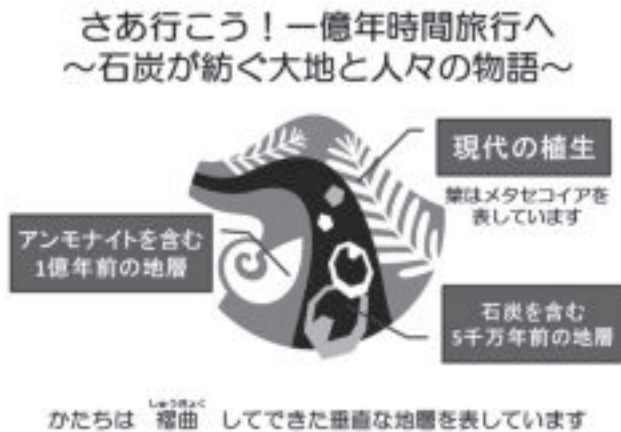


図-2 三笠ジオパークのロゴマーク

三笠ジオパークのロゴマークは、約 1 億年前のアンモナイトを含んだ地層(左側)、約 5 千万年前の石炭を含む地層(中央)、現代の豊かな植生(右)を表しており、全体の形状は圧力を受けて垂直になった地層をイメージしています。植生を表した部分に描かれているのはメタセコイアという植物で、石炭のもとになった植物のひとつであるほか、5 千万年前から姿形が変わらない「生きた化石」として、過去と現

在をつなげる役割を持っています。

(3) 石炭が紡ぐ大地と人々の物語

三笠における石炭の発見には、三笠周辺の地層の特徴が深く関わっています。

通常、地層というのは、主に川や海などの水中で砂や泥がつもることによって形成され、その時点ではほぼ水平になっています。しかし、三笠周辺の地層は長い年月をかけて東西方向からの圧力を受けたことで曲がってしまい、垂直に立ち上がっているのです。



写真-6 垂直な地層

本来であれば、石炭が含まれる時代の地層は非常に古く、それより新しい時代の地層に覆われて地下深くに埋まってしまうため、地表付近で見えることはできません。

しかし、三笠の周辺では、地層が垂直に立ち上がったことで、様々な時代の地層が地表付近まで持ち上げられて露出しており、このことが石炭の発見につながったのです。(図-3)

また、石炭とは一見関係がなさそうなアンモナイトも、実は石炭の発見と密接な繋がりがあります。三笠では、石炭資源の調査の際に、すぐ隣に広がる 1 億年前の地層からアンモナイトが発見されているのです。

通常、地層は古いものから新しいものへと順番に作られていくため、アンモナイトの化石を含む 1 億年前の地層と、石炭層を含む 5 千万年前の地層が接することはありません。しかし三笠ではこの間に一度大地が陸化した影響で、5 千万年分の地層が存在していません。そのため、石炭を含む 5 千万年前の

地層のすぐ隣に、1 億年前の地層が広がっており、石炭調査の最中に、アンモナイトを発見することができたのです。

三笠ジオパークのメインコースである野外博物館には、1 億年前と 5 千万年前の地層の境界をひとまたぎで飛び越え、時間旅行を体験できる場所があります。

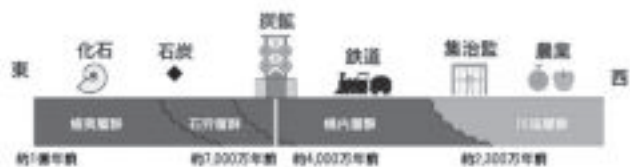


図-3 三笠周辺の地層イメージ

このように、三笠における石炭の発見は、地球規模での大地の動きと密接に関係しています。もし、三笠周辺の地層が垂直ではなかったとしたら、石炭もアンモナイトも見つからず、三笠というまちは生まれていなかったのかもしれません。

4. 三笠ジオパークの活動

(1) 保護・保全活動

三笠ジオパークでは合計 45 か所の見どころをジオサイトとして指定し、保護・保全に取り組んでいます。また、三笠ジオパークを訪れた方々が安全に見学出来るよう、階段の整備や散策路の舗装、看板の設置等についても実施しています。

この他、ジオサイトの保護・保全活動に関連して、調査研究活動も行っています。例えば、三笠ジオパークにとって重要な地域資源である炭鉱遺産については、平成 24 年から学術調査を実施し、炭鉱遺産の学術的な価値や保存の状態などについて継続的に調査を行っています。また、炭鉱まちで暮らした人々の記憶を次の世代に継承していくことを目的として、聞き取り調査も行っています。

(2) 教育活動

貴重な大地の遺産を保護・保全していくためには、その価値や重要性を伝えていくことが重要です。

三笠ジオパークでは、市民向けの学習会やセミナーを開催して広く周知を行っているほか、地域の

学校と連携した授業の実施、教育旅行の受け入れなど、様々な取り組みを行っています。

例えば、市内小中学校では、「地域科」という科目のなかでジオパークに関する授業を行っています。現地見学や調べ学習、授業での発表、下級生に対するガイド実践、市内外の方々への PR 活動などを行うカリキュラムを通して、子どもたちへの地域への理解を深めると同時に郷土愛の醸成を図っています。



写真-7 地域科授業での生徒によるガイドの様子

また、市外学校の宿泊学習や修学旅行などでの受け入れも近年増えてきています。札幌や江別を中心に、多くの子どもたちが学習のために三笠ジオパークを訪れ、三笠の歴史のみならず、北海道の大地の成り立ちや開拓の歴史などについて学んでいます。

(3) 観光活動(ツーリズム)

三笠ジオパークの面白さを最も感じる事ができるのが、ガイドがご案内するジオツアーです。

三笠ジオパークでは、大地の成り立ちと文化・歴史との繋がりを楽しく学ぶことができる様々なツアーを実施しています。春から秋にかけて、様々な内容の協議会主催ジオツアーを開催しているほか、個人・団体向けガイドの依頼も受け付けています。

ジオツアーではツアー限定の貴重な体験ができるだけでなく、目の前の景色の背景にある「大地の成り立ち」について、ガイドの解説を聞くことができます。大地の成り立ちを知ること、何の変哲もないと思っていた石や岩肌が、まったく違う物や景色に見えてきます。

看板やパンフレットからは得ることができない知識を知ることができるのも、ジオパークの醍醐味の1つです。

協議会主催のジオツアーでは、ワイナリーやダム、石炭の露天掘り現場など、ツアーでしか立ち入ることができない限定スポットの見学のほか、ラフティングや野菜の収穫などの体験も行うことができます。



写真-8 地層見学の様子(桂沢ダム原石山)



写真-9 ブドウ畑の見学(市内ワイナリー)



写真-10 石炭露天掘り現場見学の様子

個人・団体ツアーでは、所要時間や見学場所、興味のある内容などに合わせた、オーダーメイドのツアーを行うことができます。

人数についても、家族や友人同士など、少人数での見学から、巡検など団体の受け入れまで、幅広く対応しています。

三笠ジオパークを訪れる際には、ぜひジオツアーに参加して、ガイドの解説を聞いてみてください。きっと、今までとは違った視点で地層や地形を楽しんでいただけたと思います。



写真-11 参加者に解説を行うガイドの様子

5. 三笠ジオパークの楽しみ方

先ほどご紹介したジオツアー以外にも、三笠ジオパークでは様々な楽しみ方ができます。

最後に、その一部をご紹介します。

(1) 三笠ジオパーク認定商品

三笠ジオパークでは、地域振興を図ることを目的として、三笠ジオパークをイメージした土産品や食品を募集し、「三笠ジオパーク認定商品」として認定しています。認定商品については、商品やパッケージに三笠ジオパークのロゴマークの使用が認められるほか、ホームページやSNS、チラシなどで事務局によるPRを行っています。

地層を表現したそばろご飯や、アンモナイトに見立てたエビフライなど、三笠ジオパークの要素を具材によって表現したお弁当「ジオ弁」や、石炭を模した真っ黒な「石炭ザンギ」など、平成30年1月現在、31の商品が認定されています。

見て学ぶだけでなく、食を通じてジオパークを

楽しむことができますので、三笠ジオパークを訪れた際にはぜひ認定商品をご賞味ください。



写真-12 ジオ弁当(要事前予約)

今回の記事により、少しでも三笠ジオパークの活動について知っていただき、実際に訪れていただくきっかけになれば幸いです。

ツアーなどについてはホームページやフェイスブックでも情報発信を行っています。ぜひそちらもご覧ください。



三笠ジオパーク HP



三笠ジオパーク FB

(2) 謎解きイベント

このイベントは、三笠ジオパークのエリアを歩いて巡りながら各所に設置された謎を解き、ゴールを目指す体験型のイベントです。問題の内容や設置箇所にジオパークの要素をちりばめることで、地層や地質に興味がない方でも、楽しみながら三笠ジオパークについて知っていただくことを目的にしています。平成26年度から毎年開催しており、家族層を中心に4年間で約2,000名に参加いただいています。



写真-13 謎解きイベントの様子

6. 結びに

全道の技術士会会員の皆様、本稿をここまでお読みいただき、ありがとうございました。

これまでご紹介してきたように、三笠ジオパークでは石炭をはじめとする大地の遺産を活用し、様々な活動を行っています。

花 木 勇 (かばき いさむ)

三笠ジオパーク推進協議会事務局

(三笠市役所経済建設部商工観光課
地域開発・ジオパーク推進係 主事)

